

KAKEGAWA

かがわ 第27号

市議会 だより

平成22年8月1日

編集/発行 掛川市議会

静岡県掛川市長谷一丁目1番地の1

☎0537(21)1160

<http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp>



願いを込めて：こども広場あんり(本郷)にて

おもな内容 CONTENTS

- 6月定例会の概要 2ページ
- 一般質問 4ページ
- 市内の現地を視察 8ページ
- 特別委員会の設置 10ページ
- 重要課題その後 11ページ
- 傍聴席/9月定例会の予定 12ページ

平成21年度の企業会計決算特別委員会は7月5日に行われました。
 自治体企業会計は、市民の皆さんの「安全・安心」の使命を担っています。
 病院・水道事業会計とも経営状況や、時代背景を的確に捉えた運営がされているかに判断基準を置き
 慎重に審議され、7月12日の本会議において認定されました。

健全な病院経営をめざして

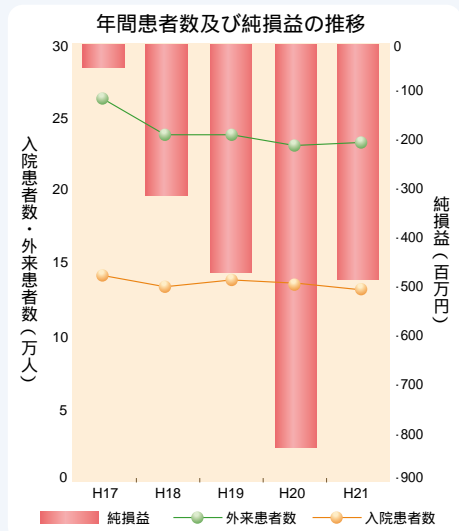
経営収支は事業収益85億7,699万円に対し費用は90億5,728万円で差し引き4億8,028万円の純損失でした。累積赤字（欠損金）は国の医療制度改革が行われた平成16年度からでその額は20億8,313万円となり、今後の収支改善が望まれます。

主な質問と回答

- Q** 開業医からの紹介率が高く、地域医療の連携が図られているようであるが？
- A** 21年度の診療所からの平均紹介率は61.6%であり、退院時の逆紹介率は47.1%である。これは数値的には地域医療支援病院として届出ができる基準を満たしている。

- Q** 研修医はここ数年6人だったが、20年度、21年度は平均1人となり減少している。増やす方法はないか？
- A** 研修医の枠は、ある程度県で配分を決めている。来年度の枠は2人あるが、県への割り当てられている枠を利用し4人になるよう要請している。

- Q** 医学生修学資金貸付制度の貸付者を増員していく方策について？
- A** 医師を派遣している大学や関連病院に当院の情報をPRしている。併せて本年は市内の一部高校の生徒の保護者に学校を通じてこの制度の周知に努めている。



給水量減少が経営を圧迫

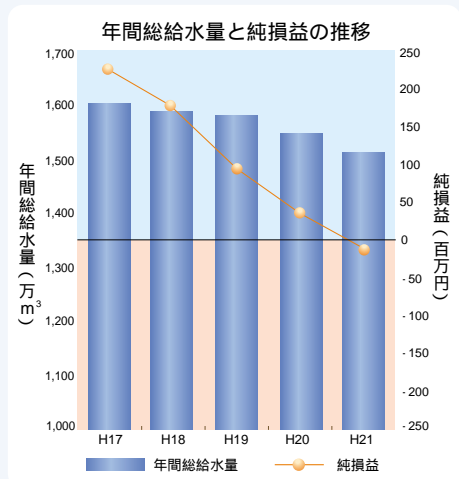
経営状況は、事業収益27億2,313万円的一方、費用は27億3,438万円で差し引き1,507万円の純損失で、当年度純損失計上は新市発足以来初めてのケースでした。

主な質問と回答

- Q** 給水収益が落ち込み21年度は合併以来初めて赤字決算となったがその原因とは？
- A** 景気低迷による工場等の使用水量の減少、一般家庭では、節水型洗濯機等の普及により使用水量が減少した。

- Q** 損失計上は将来に不安がある。これからの対応は？
- A** 赤字決算の対応策として、水道業務の外部委託、人件費の削減、自己水源の有効活用策などと「水道経営改善対策委員会」を立ち上げ経費削減策を検討していく。


- Q** 過年度未収金が16%増加しているが解消策は？
- A** 徴収事務の見直し、対象の家庭を回り納付の指導、一定期間後の給水停止などを実施する。



6月定例会における議案の審議結果一覧

	議案名	議決内容
予 算	平成22年度掛川市一般会計補正予算（第1号）について	全会一致可決
決 算	平成21年度掛川市病院事業会計決算の認定について	賛成多数認定
	平成21年度掛川市水道事業会計決算の認定について	賛成多数認定
条 例	掛川市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正について	全会一致可決
	掛川市職員の育児休業等に関する条例の一部改正について	全会一致可決
	掛川市職員の退職手当に関する条例の一部改正について	全会一致可決
	掛川市火災予防条例の一部改正について	全会一致可決
一 般	静岡地方税滞納整理機構を組織する地方公共団体の数の減少について	全会一致可決
	静岡県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数の減少について	全会一致可決
	町の新設について（宮脇地区）	全会一致可決
	掛川市道路線の廃止について	全会一致可決
	掛川市道路線の認定について	全会一致可決
	原野谷中学校屋内運動場建築工事請負契約の締結について	全会一致可決
報 告	平成21年度掛川市一般会計繰越明許費の報告について	全会一致受理
	平成21年度掛川市公共下水道事業特別会計繰越明許費の報告について	全会一致受理
	掛川市病院事業会計資金不足比率の報告について	全会一致受理
	掛川市水道事業会計資金不足比率の報告について	全会一致受理

6月定例会の経過



6月

21日 本会議 平成二十一年度企業会計決算、平成二十二年一般会計補正予算等各議案の市長提案理由説明、監査委員の決算審査説明

30日 本会議 一般質問

29日 本会議 一般質問

7月

1日 本会議 議案一部採決。議案常任委員会付託。企業会計決算特別委員会設置、付託。

5日 企業会計決算特別委員会 付託議案審査

12日 本会議 決算特別委員会・常任委員会委員長報告、討論、採決。

一般質問 Q&A

産業の振興と雇用は

草賀章吉（創世会）

○ 管内閣は新成長戦略を
発表し「環境エネルギー」
「健康」「アジア経済」「観光」
の主要四事業で一二三兆円の
市場と五〇〇万人の雇用を創
出するという。厳しい論評が
あり実行も危ふまれている。
この戦略に対する市長の感想
を伺う。市内の主要企業や産
業別動向、雇用動向等の課題
を問う。

ている状況であり、市では、
企業台帳を作成し、情報発信
などの支援を計画している。

中山間地域の振興は

○ 中山間地域振興係の課
題認識と活動の方針につ
いて問う。農商工連携室の活
動、協働共生室との関わりに
ついて問う。

○ 「強い経済」「強い財政」
「強い社会保障」の一体
の実現を目指すことが重要と
認識している。また、市内商
工業の景況感は、依然として
低い水準で停滞感が続してい
る。雇用情勢については、掛
川管内の有効求人倍率は、わ
ずかずつ回復しているが、
○・三九倍と国、県を下回っ

○ 各地域が抱えている課
題や問題点の洗い出しを
行い、新たな振興策を検討し
ていく。農商工連携室は農商
工それぞれの発想を持って連
携し、地域で生産から消費ま
でが連携する地域循環型経済
システムづくりを目標とする
ものである。協働共生室との
関わりについては、関係する
部署がお互いに連携をとっ
て、庁内横断的な施策推進を
図っていく。

都市計画税見直し有識者会議から 何をくみ取るか

柴田正美（共産党掛川市議員）

○ 三橋座長は「辺地とい
う掛川市の基準は妥当で
ない」「目的税であり、事業の
受益を受けるか否かが課税地
域を決める原則」と述べ「受
益のないところが他にもある
のか引き続き検討が必要、説
明責任も全うしてほしい」と
発言している。受益がないと
ころに課税するのはおかしい
のではないか。

ある。掛川市の受給基準収入
額（母・子二人世帯）は三四
〇万円なのに二八〇万円で知
らせているが、保護者に金額
誤りを知らせたか。

また、菊川市（母・子一人）
では三八〇万円に対して二四
〇万円である。一二〇万円も
低い。改善すべきではないか。

○ 受給基準収入額につい
ては、後日新たなものを
出した。支給基準について
は、県内では多くの市町が生
活保護基準の一・三倍であり、
掛川市の一・五倍は妥当な基
準である。したがって、現
在、これを変えることは考え
ていない。

【他の質問事項】中小業者支援に
ついて



造成中の新エコボリス

【他の質問事項】生涯学習まちづ
くり課について、「六〇才年輪の
集」について

就学援助は 異常に低い受給率、 住みよい掛川と大矛盾

○ 受給率は大阪府など二
十数%なのに、静岡県は
四%、掛川市は二%で最低で



市の見直し案で辺地と同様と
されている（東大谷地区）

一般質問 Q&A

茶の凍霜被害と掛川茶の振興策は

鈴木久男（創世会）

Q 茶は掛川市土地利用型農業を支える基幹作物である。凍霜害により大被害を受け農家の心労は大変なものだ。新茶商戦では「はしり」と呼ばれ、早い時期ほど高価で取り引きされている。県では味・香りとも最も優れた時期とされる「八十八夜の茶」ブランド化に向け販売戦略を構築したいとのことである。市としての支援策は。

A 掛川茶ブランド委員会では、価値の基準を時期ではなく、品質で評価して高く買い取り、消費者に掛川茶のトップブランド「天葉」として数量限定で販売する取り組みを行っている。市としても茶商、生産者、農協と連携



凍霜被害状況を調査する関係者（東山地区）

し、今後も新しい流通を生み出す付加価値の高い商品開発を支援していく。

公共施設の 民間委託による 管理運営に望むこと

Q 公共施設は直接公的責任を負って運営管理をすべきである。しかし、近年は行政改革の名のもとに民間業者に委託の傾向にある。安全面とサービスを損なうことがあっては困る。その方策は。

A 本年度からモニタリング評価を実施していく。この評価では、仕様書及び協定書で定められた要求基準が充足されているか、市民の満足度はどうか等を点検、評価することになっており、評価結果をもとに必要な改善を指定管理者に対し指導していく。

【他の質問事項】都市計画税見直しについて、下小笠川改修の促進について

掛川観光協会の独立を どのように考えているのか

榛葉正樹（みどりの会）

Q 現在、商工労働観光課内に設置されている掛川観光協会を庁舎外に設置し、掛川観光協会に観光戦略の主体性を持たせることが重要であると考えます。さらに、観光客の誘致推進、観光イベントの企画等を行う専務理事の人も重要である。これからの掛川観光協会の展開について所見を伺う。

A 観光協会の独立については全国的な流れであり、主体性の構築は非常に重要であるため、これから進むべき方向と考える。市としてもこのことを念頭に置きながら、協会のあり方等の検討に対して積極的な支援をしていく。

当市における静岡県 市町村対抗駅伝の 成績低迷の原因は

Q 成績低迷の原因として考えられるのは、四〇〇メートルトラックを有する陸上競技場が一つもないという

ことである。さらに、各学校間での指導者の偏りによって効率的な指導ができないなどが考えられる。今後、当市における陸上競技の普及活動をもとに考え、また、陸上競技の拠点として競技場建設を長期的に計画する考えはあるのか。

A 陸上競技をはじめ、生涯スポーツの更なる普及促進のため、様々な広報媒体を通してスポーツ関連情報を提供していく。競技場建設について現時点では、財政上の問題から既存施設の老朽、耐震化対策を重点項目と捉えており、早期の建設は困難である。しかし、今後、大東総合グラウンドにある多目的広場などを改修することであれば、陸上競技が可能な施設整備を検討していく。



三大余興の奴道中（掛川城下）

一般質問

Q&A

新病院建設に伴い地域医療の充実を

竹嶋善彦（誠和会）

Q 中東遠の医師不足は深刻で、地域医療計画も課題が多い。退院後の在宅介護は、核家族化や勤務形態の変化で家族にとって厳しい状態にあり、回復期・療養型病院など後方支援病院の充実が要望されている。掛川市東部地域健康医療支援センターも十月一日オープン予定であるが、多職種の連携や市民へのPRなど準備はどうか。

A 定期的に意見交換会を開催し、具体的な協議を進めてきた。その後は、より実践的なケースワークを中心に、実務研修を実施しており、センター開設にあたり円滑な滑り出しができるよう、調整を進めている。市民への



被害をもたらすイノシシ

PRとしては、区長会などの会議の席をお借りして、説明をしている。今後も地区集会などにおいて積極的に情報提供していく。

有害鳥獣被害の抜本的な対策は

Q イノシシなどの有害鳥獣の被害が増大しているが一向に対策が進んでいない。鳥獣被害防止計画の策定を。

A 鳥獣被害を計画的に防止していくために「掛川市鳥獣被害防止計画」について、素案を県と協議中である。この計画では、三年間の捕獲目標を定めるとともに、鳥獣を耕作地に近づけない環境づくりや防除施設導入等の防除対策を計画的に行うもので、なるべく早く策定するよう取り組んでいく。

「他の質問事項」シルバー人材センターについて

浜岡原発五号機の運転再開は東海地震に耐えられるか

川瀬守弘（共産党掛川市議員団）

Q 五号機の安全性に対する国の審査は、中電の調査結果を検討中の段階である。中電の市民説明会では「東海地震でも大丈夫」と一方的な説明である。五号機の運転再開は国の結論が出てから国による市民報告会を開き、市民の意見を聞き「事前了解」を得るべきではないか。

A 五号機が運転再開をする前に、事業者からの説明だけでなく、国からもしっかりと説明を聞けるよう求めていきたいと考えている。

新病院計画、急性期の医療体制はどうなるのか

Q 新病院の平均在院日数は十二日を想定しており、退院後の受け皿として掛川市内の回復期医療の後方病床が必要ではないか。通院リハビリはどうなるのか。

A 病状に応じて受け皿となる病院と診療所を結び病診連携、病院と病院を結び病病連携、病院と維持施設等をつなぐ後方連携を行うが、訪問看護を中心とする在宅医療を継続する場合もある。リハビリサービステキ体制については、掛川市だけでなく、中東遠医療圏の中で検討し、対応していく必要がある。

「他の質問事項」掛川市立病院の現状について、障害のある子どもたちの教育条件を改善するために、放課後児童クラブの整備・運営について



浜岡原発全景



一般質問 Q&A

掛川の特別支援学校新設に、市民要望を県へ出せるのか

高木敏男（誠和会）

Q 内装に国・県内産の木材を使い暖かみのある安らぎを与えてくれる木の文化を主張した掛川らしい建物になるよう県へ働きかけていくべきだと考える。その他の要望を含め県へ出していただけるか。

A 静岡県では、県産材活用静岡県率先行動計画が平成二十一年度に改訂されており、公共施設に木材を多用する方向が示されている。内装材等については木材を多用することが検討されていくと考えるので、要望していきたい。また、市から要望が出していただけるかということではなく、こちらの意思を県に伝えることが必要だと思う。

地域生涯学習センターと地域づくり交付金について伺う

中上禮一（みどりの会）

Q 地域づくりの原点は生涯学習にある。地域の課題は地域で解決する、この力を生み出す事が新しい公共には必要である。全地域に生涯学習センターを設けて地域づくりの拠点とする考えはないか。また、地域づくり交付金を交付する考えは。

A 南部地域における地域生涯学習センター未設置地区は四地区ある。センター設置に向けて地元と協議を進めていきたい。交付金については、市の予算をより有効に使うため、また市民活動日本一を目指し新しい公共のあり方を模索するためにも、よく研究していく。

Q 書年の本年を機に全小中学校に図書館司書を配置する考えはないか。

A 子どもたちの調べ学習の支援などにも活躍が期待されており、ますます学校図書館司書の必要性は高まっている。今後も、子どもたちの読書活動の推進や、学校図書館の活用推進のため、学校図書館司書の増員、専門の指導主事の配置などの人的な充実に努めていく。

Q 新設の特別支援学校の隣に学童保育所の整備を



積極的な利活用が期待される県内産木材

A 開校と合わせて、隣に学童保育所を整備することは、これまで移動による負担を強いられてきた障害児、特に肢体不自由児や保護者にとつて軽減される効果は絶大である。計画的な施設整備を進めていく考えはあるか。

A 学童保育の立地場所が少なく、児童の安全確保がなされることから学校敷地内が望ましく、敷地内に確保できない場合でもなるべく近接地が望ましい。今後特別支援学校が開校する際には、隣接地等の学童保育の場について検討していく。

〔他の質問事項 韓国江原道横城郡との交流について〕

Q 学校図書館司書の配置について伺う



地域づくりの拠点 土方地区センター（小学校旧用務員室）

A 本市の学校図書館司書の配置は、市内小中学校三二校にわづか三人（非常勤）で、学校図書館としての環境は十分とはいえない。国民読

市内の現地を視察

各常任委員会において、6月上旬に所管事務事項の調査として、主要道路や新病院建設予定地など、市内の現地視察を実施しました。各委員会より現地視察の内容を報告します。



総務委員会

所管事項

総務部、企画政策部、消防本部、出納局、監査委員、選挙管理委員会、公平委員会及び水道部の所管に属する事項並びに他の常任委員会への所管に属さない事項

視察箇所

- 消防本部（城内）
- 事任八幡宮（八坂）
- 川坂屋（日坂）
- 水道緊急遮断弁及びエコポリス（安養寺）
- 新病院建設予定地（下俣・長谷）
- 南部観光案内処（西大洲）
- 大須賀中央公民館（西大洲）
- 大東図書館（大坂）

新しい八人の委員で市内現地視察を行いました。総務委員会は、掛川市の重要ハード事業である新病院建設プロジェクト、今動き出した病院建設予定地の視察をはじめ、市民が安心して安全に暮らせるよう所轄の施設として消防本部・水道緊急遮断弁などを視察しました。さらにソフト面では生涯学習によるまちづくりや市民協働による歴史文化の振興等から川坂屋など文化施設の視察を行いました。



大須賀中央公民館



事任八幡宮

環境産業委員会

所管事項
環境経済部、都市建設部及び農業委員会の所管に属する事項

主な視察箇所

- JR掛川駅
- 木造駅舎保存・耐震化事業(駅前)
- 再開発事業 駅前東街区(駅前)
- 新エコポリス第2期工業団地(満水)
- 南北道路 市道海洋公園線(国安) ほか
- 農事組合法人大東農産(千浜)
- 大東浄化センター(国安)
- 湛水防除施設(山崎)
- 富士見台霊園(下俣)
- 西環状線(各和)
- 桜木中横断線(細合)
- 原野谷防災ダム(秋間)

本年度より環境部門が加わり、現地視察として主要事務事業二九箇所と多岐にわたり踏査いたしました。いずれの事業も掛川市のまちづくりにとって重要な事項ばかりであり、今日の厳しい財政状況も勘案しながら積極的に対処していかねばならないと思います。視察を終え当委員会に課せられた責務を再認識しました。



大東浄化センター



新エコポリス第2期工業団地

文教厚生委員会

所管事項
健康福祉部、教育委員会及び市立総合病院の所管に属する事項

視察箇所

- 掛川医療センター急患診療室(御所原)
- 三笠幼稚園 四月新園舎での保育開始の状況(上西郷)
- 西山口小学校 静岡式三五人学級の実施状況(成滝)
- 環境資源ギャラリー内 障がい者作業現場(満水)
- 22世紀の丘公園コミュニティセンター「たまりな」生きがいデイサービス(満水)
- 市立総合病院・掛川特別支援学校設置予定地(杉谷南)
- 城東中学校太陽光発電施設(土方)
- 大東体育館(三俣)

健康・福祉・介護・医療・教育を所管する委員会として、本市の主要施策である「健康・医療日本一」、及び「質の高い教育」の実現を目指して、大変厳しい財政環境の中でありますが創意と工夫をしつつ積極的な対応をしております。

待望した県立特別支援学校が、現市立総合病院移転跡地に立地が確実となりました。この施設は、将来東遠地域の拠点施設として期待がされますので、県に環境整備について充分な対応を図るよう、要望してまいります。さらに、特別支援学校用地以外の跡地活用についても、周辺地域のご意見を伺いながら検討していく必要があります。



城東中学校太陽光発電施設



障がい者による自転車解体作業



特別委員会を 設置しました

特定な事項の審査や調査を行うために設置される委員会を特別委員会といい、それぞれのテーマに基づき、中長期的施策の検討や提言を行います。
今年度は、「新病院建設・地域医療対策特別委員会」（昨年度から継続）
「議会改革検討特別委員会」「産業振興特別委員会」「議会だより編集特別委員会」の
四つの特別委員会を設置しました。ここでは、各委員会の調査内容を紹介いたします。

◎ 委員長、○ 副委員長

新病院建設・地域医療対策特別委員会

新病院を期限内に建設すべく一部事務組合設立から負担割合やアクセス計画等の課題、病院跡地利用や地域医療のあり方について調査・研究を行っていきます。〔委員24名（全議員）〕

◎堀内武治 ○松井俊二

議会改革検討特別委員会

議会運営や議会のあり方について調査・研究を行っていきます。〔委員12名〕

◎竹嶋善彦 ○草賀章吉 ●加藤一司 ●榛葉正樹 ●柴田正美 ●山崎恒男 ●山本行男
●鳥井昌彦 ●鈴木正治 ●大庭博雄 ●堀内武治 ●雑賀祥宣

産業振興特別委員会

農・工・商の連携と観光の推進など産業の活性化に向けての調査・研究を行っていきます。

〔委員12名〕

◎大石與志登 ○榎原通泰 ●鈴木久男 ●中上禮一 ●川瀬守弘 ●松井俊二
●佐藤博俊 ●水野 薫 ●高木敏男 ●内藤澄夫 ●山崎恵司 ●豊田勝義

議会だより編集特別委員会

市民へ市政や市議会の情報を提供する「かけがわ市議会だより」の発行にあたって編集作業を行っていきます。〔委員8名〕

◎大庭博雄 ○鈴木久男 ●榛葉正樹 ●山崎恒男 ●川瀬守弘 ●山本行男 ●鈴木正治
●山崎恵司

重要課題その後

大東・大須賀区域のごみ処理

～まとめて環境資源ギャラリーに ごみ減量作戦の効果大～

合併当時、大東・大須賀区域のごみ処理は大東区域の環境保全センターで行われていた。しかし、この施設は、地元・浜野地区との協定で、平成21年度までの使用となっており、それ以降は、この施設は使えないという問題を抱えていた。

市議会にこの問題が取り上げられたのは、17年12月定例会で、資源ギャラリー（平成17年9月稼働）との統合について、また、18年6月定例会では、約束通りの施設運用停止が求められ、市もこの方針で約束履行のための検討が始まった。

掛川区域のごみ処理は、掛川市・菊川市で共同で設置された資源ギャラリーで行われており、運転開始後ほぼ順調に運転されていた。この施設を使用して、大東・大須賀区域のごみを処理できないかと検討に入った。これには、処理能力、菊川市の了承、地元地区の理解等大きな問題を解決する必要があった。処理能力については両市民の協力・努力で各家庭からのごみ排出量を減量出来たことで問題をクリアーでき、菊川市の了承、地元地区の理解を得て、大東・大須賀区域のごみ

を資源ギャラリーで処理することが可能となり20年4月から実行されている。現在、資源ギャラリーのごみ処理能力は、140トン（日量）に対し、大東・大須賀分21トン（日量）を余裕を持って処理している。

新しい施設をつくることなく全市民が1つの施設でごみ処理できるようになったことは、大きな成果であり、市民のごみ減量作戦によるものでもある。新設の建設費及び運転費用を考えれば、効果は膨大であり、市の財政への寄与は大きい。



廃止された環境保全センター（浜野）



▲環境資源ギャラリー（満水）

議会 日誌



5月

- 21日 ●市議会全員協議会
- 25日 ●議会運営委員会
●総務委員会協議会
●環境産業委員会協議会
●文教厚生委員会協議会
- 26日 ●全国市議会議長会定期総会
(東京)

6月

- 1日 ●環境産業委員会現地視察
- 2日 ●文教厚生委員会現地視察
- 3日 ●静岡県地方議会議長連絡協議会定期総会
(静岡市)
- 4日 ●総務委員会現地視察
- 14日 ●議会運営委員会
●議員懇談会
●総務委員会協議会
- 15日 ●議会だより編集特別委員会
- 16日 ●議会改革検討特別委員会

21日~7月12日

- 掛川市議会
第3回(6月)定例会
- 21日 ●産業振興特別委員会
- 22日 ●新病院建設・地域医療対策特別委員会
- 25日 ●議会だより編集特別委員会
- 30日 ●議会運営委員会

7月

- 8日 ●議会だより編集特別委員会
- 14日 ●議会だより編集特別委員会

傍聴席

昨年四月の市議改選に伴い、新議員が誕生したことで、定例の本会議(一般質問)を前年三回(六・九・十二月)本年二回(三・六月)傍聴を行ってきた。

その理由は、南部地区に都市計画税が課税され、見直し案が叫ばれたことで、議員の質問に当局がどのような答弁をするか関心があったからである。

本会議場での質疑は議事録に残り、質問する議員は相当の知識と勉強に加え、近隣の調査等も行い、与えられた三十分以内の貴重な時間でやりとりをするが、本会議会ではこの三十分に分たりとも余したくないよう、質疑をする姿を傍聴し、一層の期待感を感じインターネットでは味わえない部分であった。

市民が即知りたいことを、傍聴席で知ること、これ以上ない正確な情報が得られ関心も高まると思われるが、質問する議員が昨年より今年は少なくなってきたことに、厳しい財政状況のなかで非常に気になるところである。

市をチエックする立場の機関として、多くの議員の質問を期待し、市民はその内容を知りたいものである。二、三年先を見据えた市政がどのように変化をするのか、今後とも関心を持って傍聴していきたいと思っている。

中方 後藤 進

9月定例会の予定

- 2日 本会議(議案の提案説明)
- 9日 本会議(一般質問)
- 10日 本会議(一般質問)
- 13日 本会議(議案質疑、委員会付託)・常任委員会
- 16日 一般会計・特別会計決算特別委員会
- 17日 一般会計・特別会計決算特別委員会
- 29日 本会議(委員長報告、質疑、討論、採決)



表彰を受けられた堀内武治議員(左)と加藤一司議長

5月26日に開催された第86回全国市議会議長会定期総会において、堀内武治議員が市議会議員一般表彰15年表彰、加藤一司議長が同10年表彰を受けられ、記念品が授与されました。

編集後記

六月定例会は、補正予算と病院・水道事業の決算認定が主な議案でした。そして、一般質問には、八人が立ち、市の重要課題について熱い議論が交わされました。「議会だより」の編集も特別委員会として新しいメンバーで行い、本号をお届けすることができました。

「議会だより」の使命は、市民の皆さんに読んでもらい、市政を知ってもらい、多くの市民が市政に参画してもらうことだと思えます。そのために、編集する上で大切なことは、「ありのままに」「わかりやすく」「市民とともに」であると考えています。皆さんに読んでもらえるような臨場感のある議会だよりの編集に努めます。

なお、市民の皆さんには「議会だより」に関し、ご意見、お気づきの点等がありましたら、お声をお寄せください。

一年間よろしくお願ひします。

議会だより
編集特別委員会
委員長

大庭博雄



議会だより編集委員(左から)
山本行男委員/川瀬守弘委員/山崎恵司委員/大庭博雄委員長/鈴木久男副委員長/鈴木正治委員/山崎恒男委員/棟葉正樹委員